

2015年1月14日

証券コード 3201

2014年11月期(平成25年12月1日～平成26年11月30日)

ニッケグループ決算説明資料

当期の連結業績は、売上高**100,477**百万円、営業利益**6,028**百万円、
経常利益**6,635**百万円、当期純利益**3,572**百万円となりました。



ニッケグループスローガン：“声”を明日につなげる

<http://www.nikke.co.jp>

I. 2014年11月期(第184期)実績

1. 連結業績の概要について

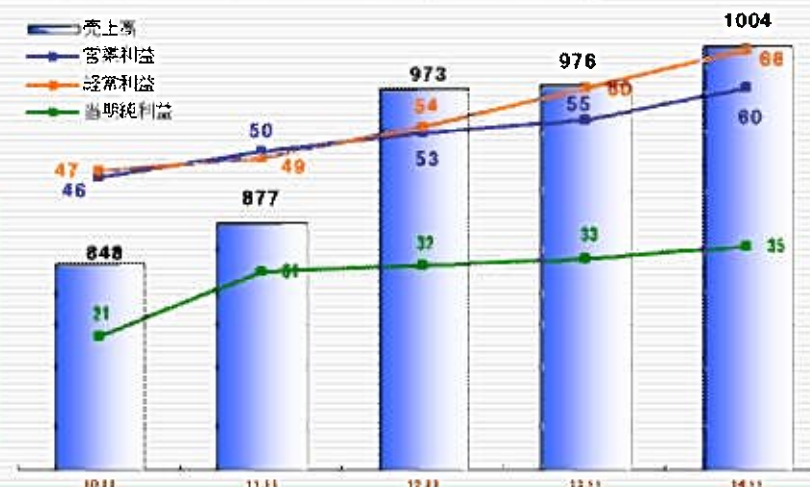
2014年11月期の連結決算は増収増益（5期連続）

	13.11実績 (百万円)		14.11実績 (百万円)		前期比 (百万円)	前期比 (%)	14.1.14付 予想進捗(%)
		構成比(%)		構成比(%)			
売上高	97,677	100.0%	100,477	100.0%	2,799	2.9%	100.5%
営業利益	5,596	5.7%	6,028	6.0%	432	7.7%	100.5%
営業外収支	427	-	606	-	179	-	-
経常利益	6,023	6.2%	6,635	6.6%	611	10.2%	107.0%
特別損益	▲640	-	▲906	-	▲266	-	-
当期純利益	3,346	3.4%	3,572	3.6%	225	6.7%	102.1%

【単位 億円】

	13.11	14.11
自己資本比率	57.6%	58.6%
ROA	2.6%	2.7%
ROE	4.6%	4.6%

◆連結範囲：連結子会社43社、持分法適用会社3社、単体加え合計47社（前期末比▲2社）。
 ◆業績概要：前期に苦戦した産業機材事業が堅調に推移し、また、ソーラー売電事業や介護事業も着実に進捗した。連結業績は、売上高、利益面とも前期を上回る結果となった。



2. セグメント別業績の概要について

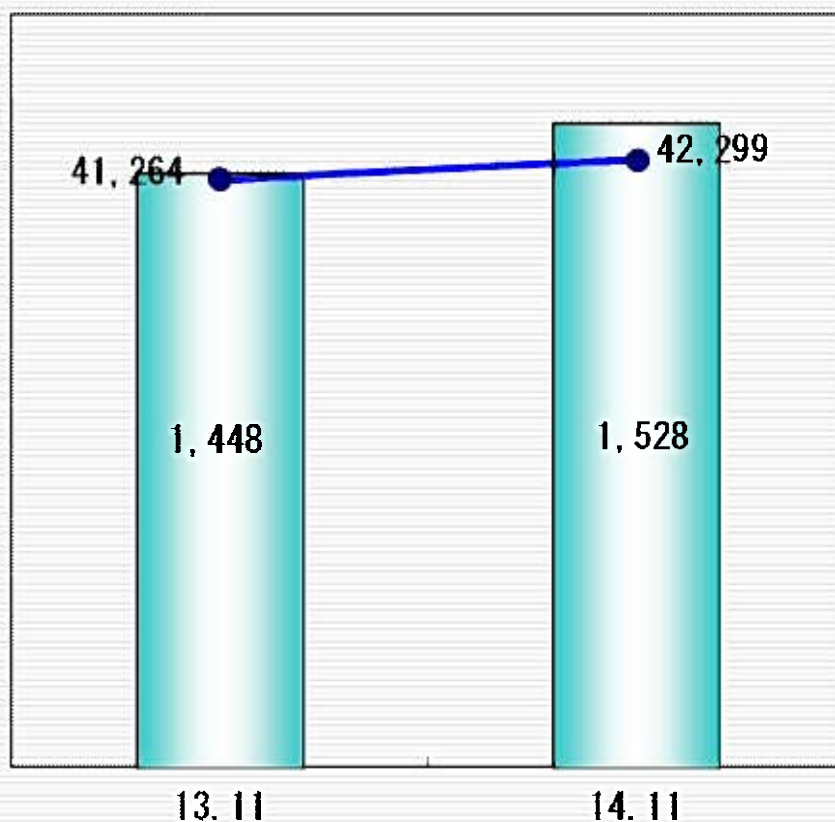
セグメント別では、衣料繊維と産業機材が増収増益

		13.11実績	14.11実績	前期比
衣料繊維事業	売上高	41,264	42,299	2.5%
	営業利益	1,448	1,528	5.5%
	営業利益率	3.5%	3.6%	-
産業機材事業	売上高	18,234	19,701	8.0%
	営業利益	522	777	48.9%
	営業利益率	2.9%	3.9%	-
人とみらい開発事業	売上高	16,200	14,674	-9.4%
	営業利益	4,247	4,511	6.2%
	営業利益率	26.2%	30.7%	-
コンシューマー事業	売上高	21,978	23,802	8.3%
	営業利益	907	778	-14.2%
	営業利益率	4.1%	3.3%	-
その他・調整額	営業利益	-1,529	-1,567	-
合計	売上高	97,677	100,477	2.9%
	営業利益	5,596	6,028	7.7%

【単位：百万円】

3. 衣料繊維事業の概況について

【単位：百万円】



●売上高(前期比2.5%増)

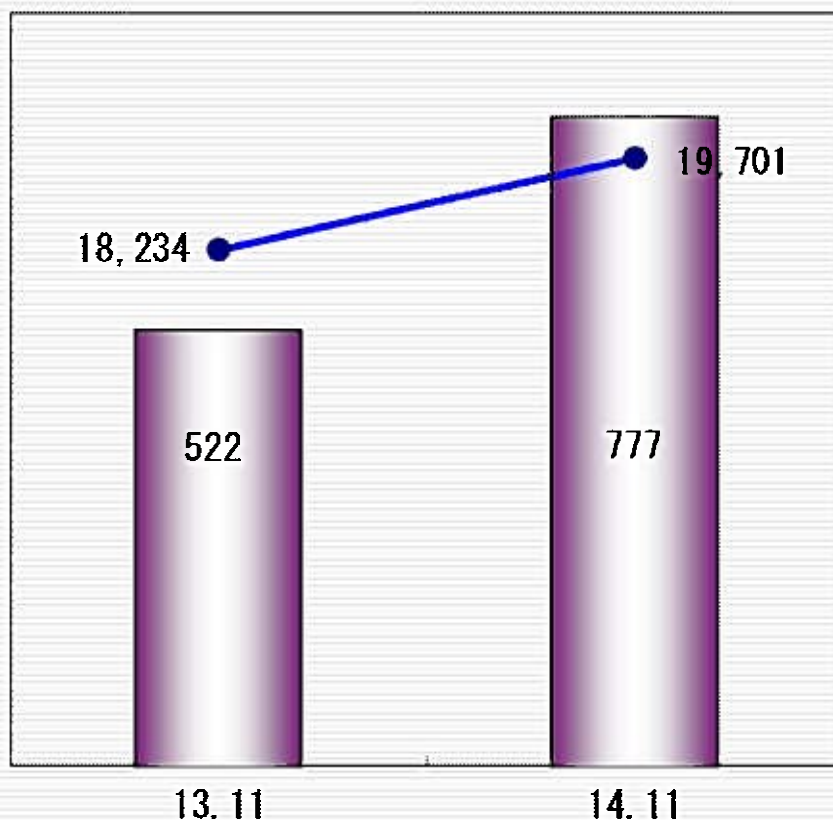
- ◆売糸は、ニット用丸編み(ジャージ)系の販売が堅調に推移し、増収。
- ◆学校制服用素材は、ほぼ前期並みとなったが、官公庁制服用素材は、予算減による調達量の減少により、減収。
- ◆一般企業制服用素材は、交通・金融関係の更改・更新需要の増加に加え、警備関係の制服の新規受注などが寄与し、増収。
- ◆一般衣料用素材は、レディスおよび百貨店アパレル向けが堅調も、郊外店向けは就活時期の変更に より出荷時期が後ろにずれ込み、減収。
- ◆海外への販売は、北米既存顧客向けが伸び悩んだものの、欧州向け新規顧客の獲得により、ほぼ前期並み。

●営業利益(前期比5.5%増)

営業利益は、原毛価格の高止まりや円安による粗利ダウンを経費の削減でカバーし増益。

4. 産業機材事業の概況について

【単位：百万円】



●売上高(前期比8.0%増)

◆産業用資材は、自動車向け資材の商況回復や、中国におけるPM2.5の影響による空気清浄機用フィルターの需要の増加などにより、大幅な増収。

◆生活用資材は、釣具が海外OEMなどの落込みにより減収となったが、バドミントン用ラケットやカットの販売が好調に推移し、全体ではほぼ前期並み。

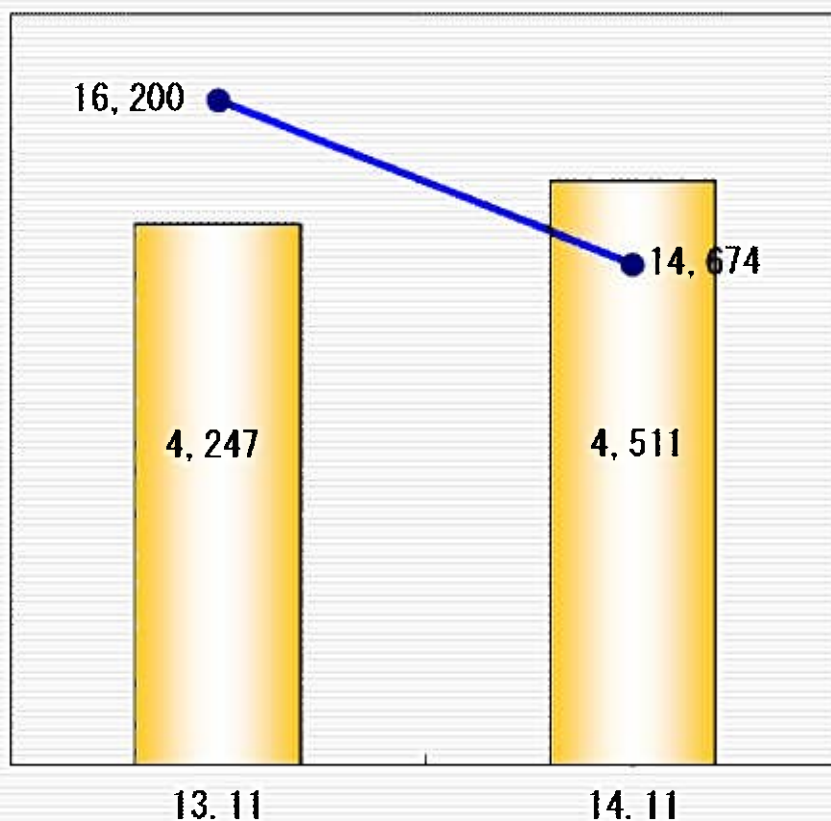
◆産業用機械・計測器は、車載電装品製造ラインのファクトリーオートメーション装置の好調、ソーラー発電設備の設計・施工工事の受注増がともに続いたことにより、増収。

●営業利益(前期比48.9%増)

前期に不調だった自動車向けが好調に推移したことや、中国でのPM2.5の影響で需要の多い空気清浄機用フィルターの伸びなどが主な要因となり増益。

5. 人とみらい開発事業の概況について

【単位：百万円】



●売上高(前期比9.4%減)

◆商業施設運営事業は、「ニッケコルトンプラザ」では、6月以降に衣料品や飲食、併設シネマなどの客足が伸びず低迷したが、増税前の駆け込み需要が好調であったこと、ショッピングセンター運営業務の新規受託が寄与したことで、微増収。また「ニッケパークタウン」では、駆け込み需要に対応した販促企画が好調も夏のバーゲンでの婦人服の伸び悩みや天候不順の影響もあり、ほぼ前期並み。

◆不動産事業は、愛知県稲沢地区での土地賃貸や、ソーラー発電施設を12拠点にまで増設したことにより、大幅な増収。一方、建設事業では前期ほどの大型工事がなく大幅な減収。ビル管理事業では新規受注などにより、増収。

◆スポーツ事業は、ゴルフ練習場・ゴルフコースにおいて、スクール受講者数が順調に伸びたものの、ゴルフ人口の減少などの要因に加え、天候面の影響で入場者が激減したことにより、大幅な減収。一方、テニススクールでは、受講料収入が伸び悩むも、テニス用品の販売拡大が奏功し、増収。

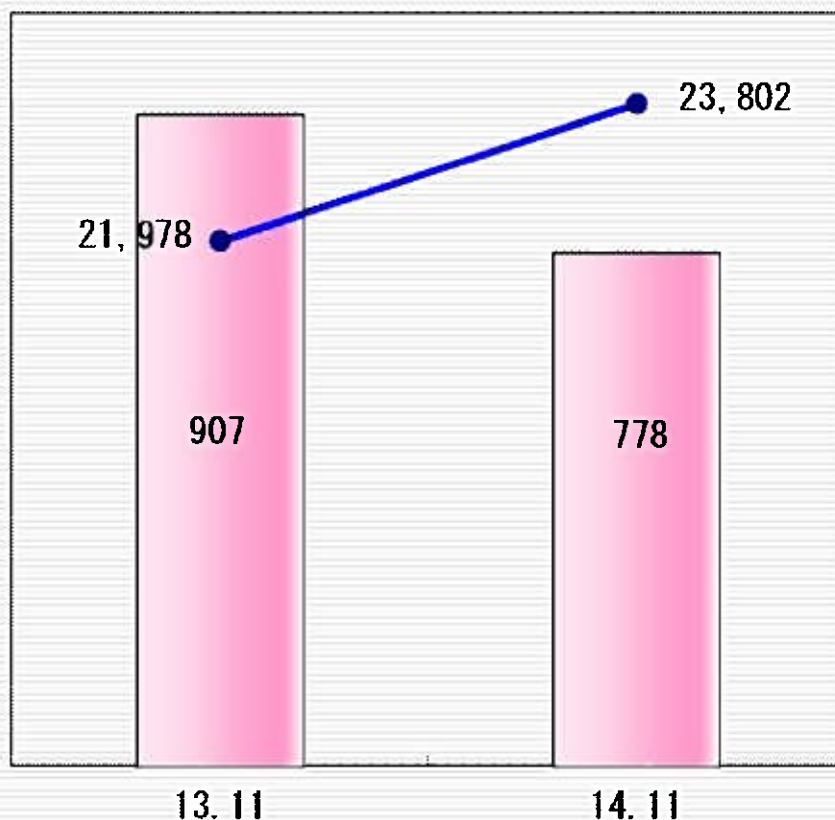
◆介護事業は、既存施設が順調に利用者数を伸ばしたことに加え、3月に開業したグループホーム「てとて加古川」などが売上げに寄与したことにより、大幅な増収。

●営業利益(前期比6.2%増)

ソーラー売電事業が発電施設の増設と、予想発電量を上回る稼働実績を残した事や、介護事業での既設及び新規開業施設の利用者数を伸ばしたことが大きく寄与し、大幅な増益。

6. コンシューマー事業の概況について

【単位：百万円】



●売上高(前期比8.3%増)

- ◆寝装事業は、災害用備蓄毛布の販売が堅調に推移したことと大口案件の受注により、増収。
- ◆手編毛糸事業は、催事販売が伸びず、大幅な減収。
- ◆貿易代行業は、コンテナの輸入設置事業は好調も、輸入代行業務が減少したことにより大幅な減収。
- ◆100円ショップ向け卸売事業は、新商品の開発と、新規取引先の開拓により、増収。
- ◆携帯電話販売事業は、スマートフォン市場の拡大とキャリア間競争による市場の活性化や、前期実施の店舗の移転増床に伴う販売台数の増加が影響し、大幅な増収。
- ◆アイスクリーム事業とビデオレンタル事業は、前期に出店した店舗の売上げ寄与により、増収。
- ◆飲食事業については、5月にオープンした大型飲食店舗「WOOL HOMMACHI BEER ARCADE」が売上げに寄与したことにより、増収。
- ◆今期より、前期に加わった個人向け保険代理店を営む株式会社ニットファミリーおよびスタンピングなどの製造・販売を営む株式会社ツキネコの売上げが、通期で寄与。

●営業利益(前期比14.2%減)

物流費、原料高、為替変動および出店経費が高み減益。

7.連結B/S・連結C/F (単位：百万円)

連結貸借対照表	13.11	14.11	増 減
資産合計	132,931	133,938	1,007
流動資産	65,988	66,881	893
固定資産	66,942	67,057	115
有形固定資産	39,697	41,096	1,399
無形固定資産	622	858	236
投資その他の資産	26,622	25,102	-1,520
負債合計	55,445	54,496	-949
流動負債	31,917	33,430	1,513
固定負債	23,527	21,066	-2,461
純資産合計	77,485	79,442	1,957
株主資本	70,798	72,962	2,164
資本金	6,465	6,465	0
資本剰余金	4,543	4,543	0
利益剰余金	67,402	69,582	2,180
自己株式	-7,613	-7,629	-16
その他包括利益累計額	5,791	5,526	-265
少数株主持分	895	953	58
負債・純資産合計	132,931	133,938	1,007

連結C/F概要

●堅調な利益計上と棚卸資産の削減などで営業CFは資金収入。

●積極的な設備投資により投資活動CFは資金支出。

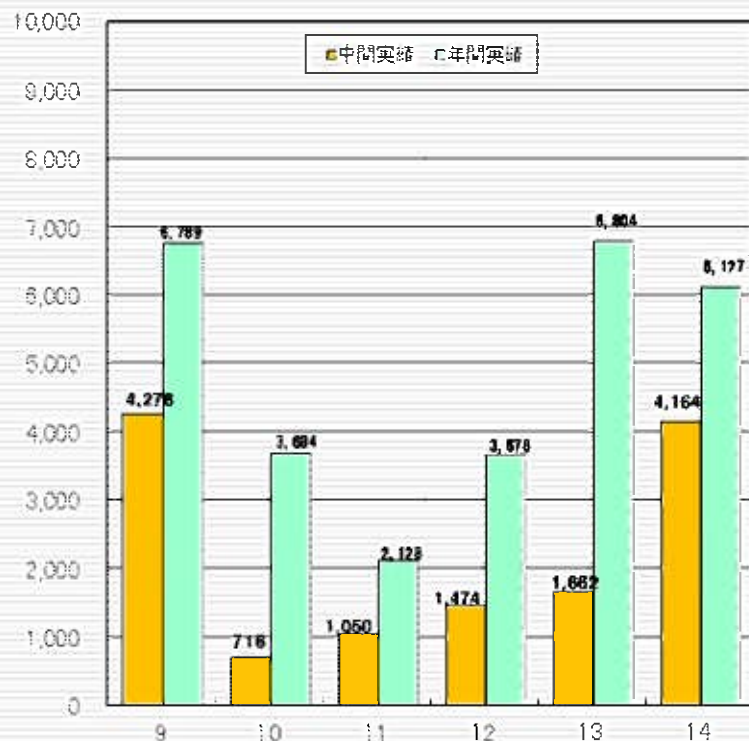
●長短借入金を圧縮し、財務活動CFは資金支出。

連結キャッシュフロー計算書(要旨)	13.11	14.11	増 減
営業活動によるキャッシュフロー	6,180	12,146	5,966
投資活動によるキャッシュフロー	-10,104	-4,061	6,043
財務活動によるキャッシュフロー	2,158	-5,334	-7,492
トータルキャッシュフロー	-1,766	2,751	4,517
現金及び現金同等物の換算差額	125	61	-64
現金及び現金同等物の期末残高	11,986	14,923	2,937

8.設備投資・減価償却費の推移

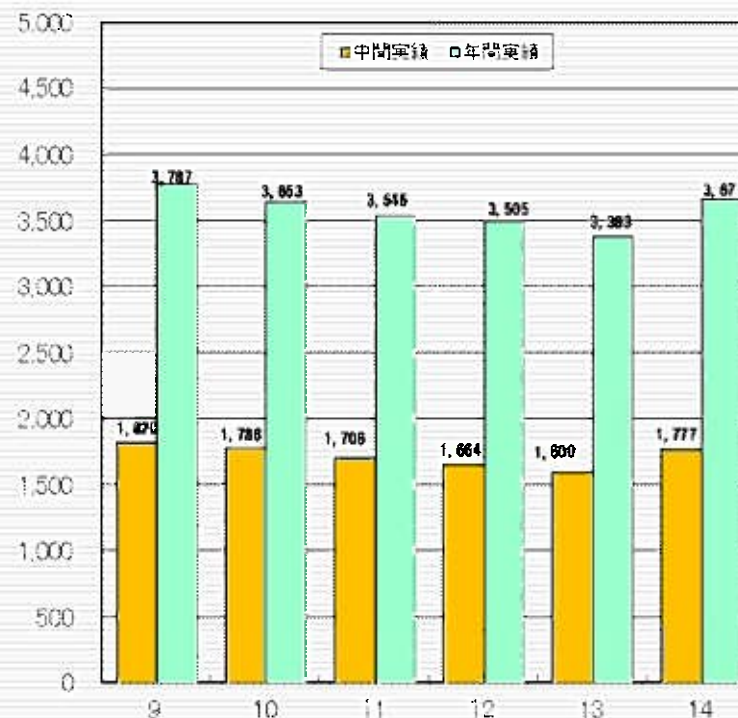
単位:百万円

設備投資の推移



単位:百万円

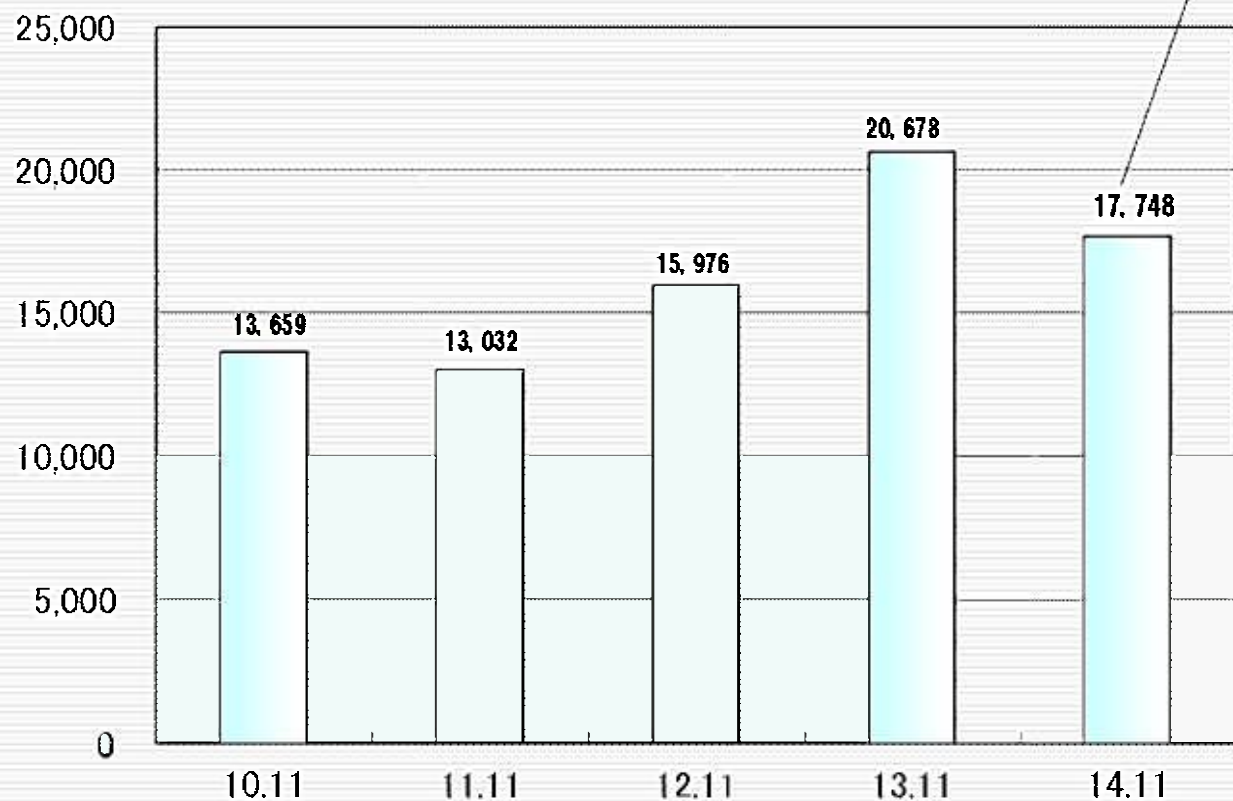
減価償却費の推移



当期の設備投資実績(固定資産計上)は6,127百万円。主なものは、土山メガソーラーⅡ期工事14億円、織物工場跡地の賃貸住宅開発(ニッケガーデンコート花水木)11億円など。

9. 連結有利子負債の推移

【単位:百万円】



積極的な投資は継続的に実施。当期は在庫圧縮などに取り組み、有利子負債を約29億円削減。

□年間実績

II. 2015年11月期(第185期)予想

10.次期連結業績予想

2015年11月期（第185期）の連結業績は、増収増益を予想

	14.11実績 (単位：百万円)		15.11予想 (単位：百万円)		前期比 (百万円)	前期比 (%)
		構成比 (%)		構成比 (%)		
売上高	100,477	100.0%	103,000	100.0%	2,523	2.5%
営業利益	6,028	6.0%	7,000	6.8%	972	16.1%
経常利益	6,635	6.6%	7,200	7.0%	565	8.5%
当期純利益	3,572	3.6%	4,000	3.9%	428	12.0%

2015年11月期（第185期）は、NN120第2次中期経営計画（2013～2015年）の最終年度にあたる。2015年11月期（第185期）の連結業績は、衣料繊維事業と産業機材事業における業績向上とコンシューマー事業の事業拡大を見込む。また、人とみらい開発事業は安定的に業績に寄与し、全体で前年比増収増益の予想としている。

11.セグメント別業績予想

		14.11実績	15.11予想	前期比
衣料繊維事業	売上高	42,729	43,000	0.6%
	営業利益	1,528	1,700	11.3%
	営業利益率	3.6%	4.0%	-
産業機材事業	売上高	19,922	20,000	0.4%
	営業利益	777	1,350	73.7%
	営業利益率	3.9%	6.8%	-
人とみらい開発事業	売上高	16,337	16,200	-0.8%
	営業利益	4,511	4,500	-0.2%
	営業利益率	27.6%	27.8%	-
コンシューマー事業	売上高	24,258	25,700	5.9%
	営業利益	778	1,040	33.7%
	営業利益率	3.2%	4.0%	-
その他・消却・調整	売上高	-2,770	-1,900	-
	営業利益	-1,567	-1,590	-
	営業利益率	-	-	-
合計	売上高	100,477	103,000	2.5%
	営業利益	6,028	7,000	16.1%

注)上記売上げには、セグメント間の売上げを含む。

12.衣料繊維事業の次期予想と取組み

業績予想

売上高	43,000百万円 (前期比 0.6%増)
営業利益	1,700百万円 (前期比11.3%増)

2015年11月期(第185期)の取組み

- ①ユニフォーム事業での更なる生産性向上**
顧客のニーズ・変化を捉え、アパレルとの取組みを強化するとともに、商社機能の活性化により更なる生産性向上を図る。
- ②テキスタイル事業の収益向上と売糸事業での国内・海外販売の強化**
販売体制の見直しやグローバル生産体制の構築、素材開発力の強化に取り組むことにより収益向上を図る。

13.産業機材事業の次期予想と取組み

業績予想

売上高	20,000百万円 (前期比 0.4%増)
営業利益	1,350百万円 (前期比73.7%増)

2015年11月期(第185期)の取組み

①構造改善による収益向上

産業用資材事業では前期から取り組む構造改善を遂行するとともに、産業用機械事業では案件の採算管理徹底によって、収益力の向上に取り組む。

②海外オペレーションの拡大や事業の幅だし

自動車・電機業界メーカーの海外シフトや現地資材調達の流れに対応するとともに、スポーツ用品などの生活資材においても海外需要の開拓に取り組む。また、研究開発センターとの協働による開発・技術力の強化を図る。

14. 人とみらい開発事業の次期予想と取組み

業績予想

売上高	16,200百万円 (前期比0.8%減)
営業利益	4,500百万円 (前期比0.2%減)

2015年11月期(第185期)の取組み

① 所有不動産の収益強化

不動産賃貸事業や太陽光発電事業「ニッケまちなか発電所」など所有不動産の収益強化に引き続き取り組む。

② 地域に密着した施設展開と魅力アップ

ショッピングセンター事業ではリニューアルやテナント誘致による更なる魅力アップを目指し、スポーツ事業や介護事業においても地域に密着した施設展開による業績向上に取り組む。

15. コンシューマー事業の次期予想と取組み

業績予想

売上高	25,700百万円 (前期比 5.9%増)
営業利益	1,040百万円 (前期比33.7%増)

2015年11月期(第185期)の取組み

①ニッケグループの新たな販売戦略の構築

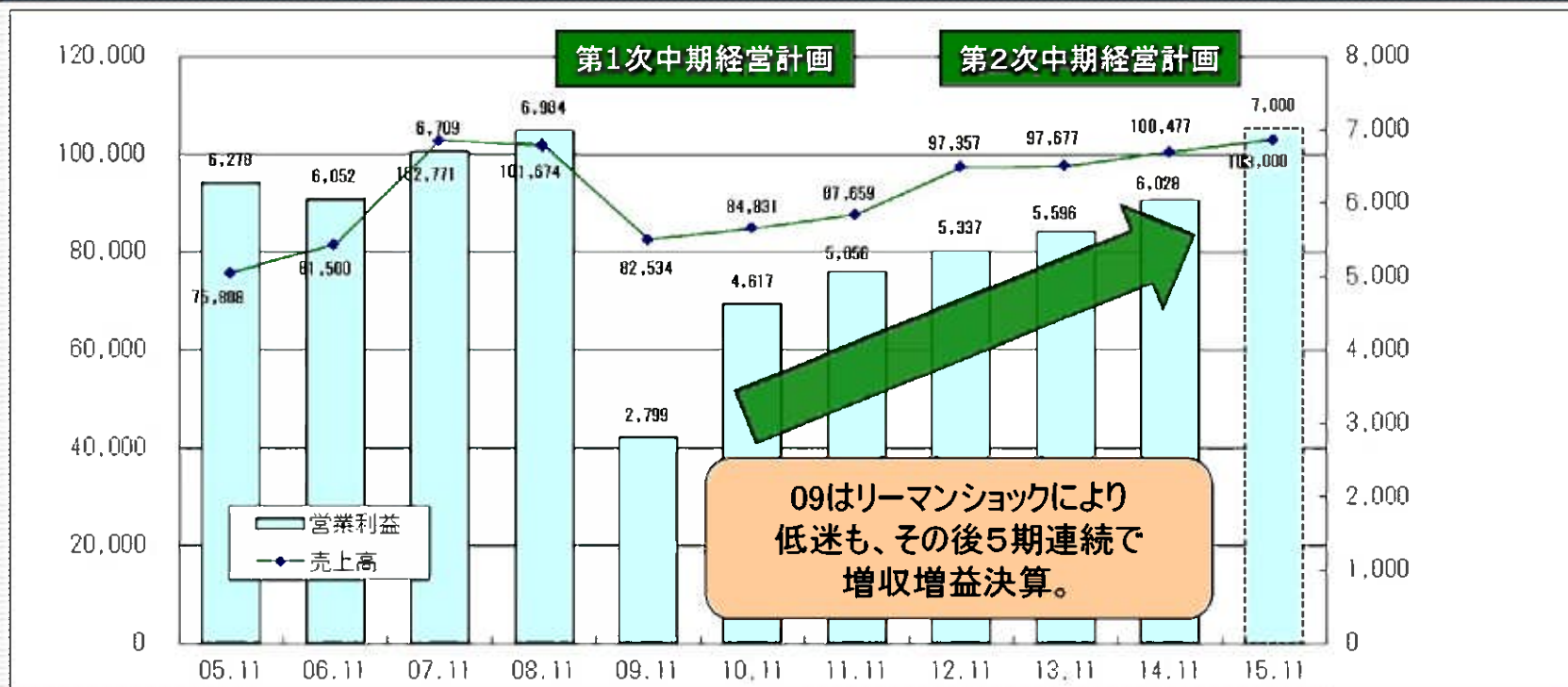
新たに加わったグループ会社が持つ電子商取引（Eコマース）を活用し、ニッケグループの新たな販売戦略の構築に取り組む。

②更なる事業規模の拡大と収益基盤の確立

生活流通事業では安定的収益基盤の確立と事業拡大を目指し、通信事業やキッズランド事業においても積極的出店と質の向上に取り組むことで、更なる事業規模の拡大に取り組む。

16.NN120ビジョンの達成に向けて

2015年度には中期経営計画の目標達成を見込む。
ニッケグループのこれからの10年の目指す方向性、企業像、経営戦略を再構築すべく、全社的に「リニューアルニッケ130 (RN130ビジョン)」の策定に着手。



III. 株主還元方針

17.株主還元方針

利益水準に応じて持続的に配当水準を引き上げ

次期以降は業績により増配も視野に



参 考 資 料

(参考) 2014年11月期における重点施策の実施状況について

●衣料繊維事業（販売体制の再編）

原料の高止まりと円安進行などによる厳しい環境が続く中、売糸事業の統合（南海ニッケヤーン(株)）に続き、企画・生産・販売の距離を縮め、スピード感ある意思決定と、顧客満足の向上を目指し、ニッケのメンズ・レディステキスタイル部門と海外営業部門を分社化したニッケテキスタイル株式会社が発足しました。

●産業機材事業（業績が堅調に推移）

前期苦戦した産業機材事業では、資材事業の統合や事業構造改善に取り組み、これらの効果や自動車関連事業の回復、空調用フィルターの需要増などを主要因として、業績は堅調に推移しました。前期との比較では、売上高が+8.0%、営業利益が+48.9%の増収増益となりました。

●人とみらい開発事業（ソーラー発電事業、介護事業の着実な進捗）

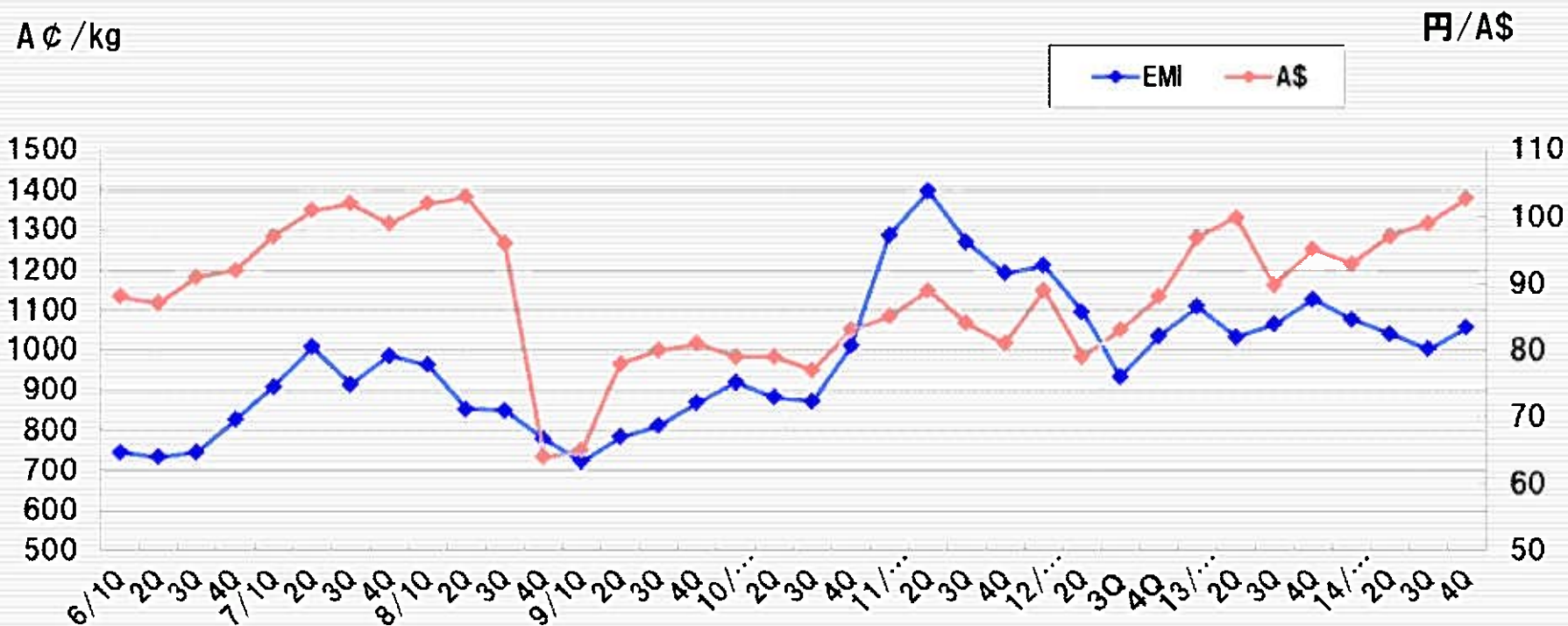
ニッケまちなか発電所「明石土山/第2・第3発電所」や同「市川/コルトンプラザ発電所」などが今期追加稼働し、当社のソーラー発電施設「ニッケまちなか発電所」は計12地区17箇所となりました。

介護事業では3月に「てとて加古川」（兵庫県加古川市）と「てとてニッケタウン」（愛知県あま市）を開業しました。これで介護事業は10地域28箇所の施設規模となり、既存施設の利用者増や新規施設の寄与も加わり順調に推移しています。

●コンシューマー事業（M&Aの実施）

コンシューマー事業における事業拡大施策として、当社連結子会社のニッケ商事株式会社にて株式会社ナイスデイの全株式を取得しました。株式会社ナイスデイは、寝具・寝装品を主力商品として、独自のシステムを活用した電子商取引（Eコマース）により順調に事業を拡大しております。このM&Aを機に、同社が持つシステムならびに各種経営資源の有効活用を推進し、当社グループの新たな「B to B」「B to C」の販売戦略を構築していきます。

(参考) 羊毛相場・為替相場の推移について



(参考) ニッケグループのホームページとfacebookのご案内

ニッケグループ ホームページ

<http://www.nikke.co.jp>

facebook

<http://www.facebook.com/nikke.group>



う~るん

●●●ニッケグループのさまざまな表情を発信していきます

(参考) ニッケグループの経営理念・経営方針について

経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを自指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

- 祖業に関りの深いウールが持つ「やさしく、あったかい」をニッケグループの企業イメージとし、人々にものと心の豊かさを提供して、地球環境に調和するために、グループ社員の一人ひとりが**情熱と誇りをもってチャレンジ**することを経営理念といたします。この経営理念に裏打ちされた事業の成長により、企業価値を持続的に高めて参ります。
- 「繊維」「非繊維」の意識を廃し、全ての事業が主役と認識して、共通の経営理念・方針をもつ事業複合体と考え、さまざまな分野で、お客様に満足頂ける商品やサービスを提供してまいります。

(参考) 主要なグループ会社について

●衣料繊維事業

(株)ナカヒロ(大阪府中央区)、アカツキ商事(株)(東京都墨田区)、佐藤産業(株)(東京都千代田区)、ニッケテキスタイル(株)(愛知県一宮市)、南海ニッケヤーン(株)(愛知県一宮市)、大成毛織(株)(愛知県一宮市)、尾州ウール(株)(愛知県一宮市)、青島日毛織物有限公司(中国山東省)、江陰日毛紡績有限公司(中国江蘇省)、南海ニッケ・トレンガヌ社(マレーシア トレンガヌ州)、南海ニッケ・マレーシア社(マレーシア セランゴール州)

●産業機材事業

アンビック(株)(兵庫県姫路市)、(株)ゴーセン(大阪府中央区)、(株)ニッケ機械製作所(兵庫県加古川市)

●人とみらい開発事業

ニッケ不動産(株)(神戸府中央区)、(株)ニッケ・ケアサービス(愛知県一宮市)、(株)ニッケインドアテニス(愛知県あま市)、(株)ニッケレジャーサービス(愛知県弥富市)、

●コンシューマー事業

ニッケ商事(株)(大阪府中央区)、(株)双洋貿易(神戸府東灘区)、(株)ニッケ物流(愛知県一宮市)、(株)友栄(大阪府枚方市)、ニッケアウデオSAD(株)(大阪府中央区)、(株)ジーシーシー(大阪府中央区)、(株)ツキネコ(東京都千代田区)、(株)ニットーファミリー(神戸府中央区)

「ウールのニッケ」から“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”へ

NIKKE
Group

本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。



う～るん

IRに関するお問い合わせは・・・
ニッケ(日本毛織株式会社)
経営戦略センター総務法務広報室
TEL 06-6205-6601
IRページ <http://www.nikke.co.jp/ir/index.html>